

会 議 名	第3回港区ホームページリニューアル業務委託事業候補者選考委員会	
開 催 日 時	令和6年2月28日（水曜日）午後6時から午後7時まで	
開 催 場 所	区役所9階915会議室及びオンライン会議（Teams）	
委 員	（出席者）5名 川上委員長、大澤副委員長、松永委員（オンライン）、高山委員、菊池委員 （欠席者）なし	
事 務 局	区長室長、広報係長、広報戦略担当係長、広報係員	
会 議 次 第	1 開会 2 第二次審査実施概要について 3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施 4 第二次審査結果及び事業候補者の選定について 5 閉会	
配 付 資 料	<p>[配布資料]</p> <p>資料1 第二次審査実施概要</p> <p>資料2 第二次審査採点基準表</p> <p>資料3 第二次審査質問項目</p> <p>資料4 第一次審査・第二次審査集計結果</p> <p>資料5 第2回選考委員会議事録概要</p> <p>参考資料1 第一次審査集計結果</p> <p>参考資料2 事業候補者選考基準</p> <p>参考資料3 仕様書</p>	
会議要旨		
委員長	<p>1 開会</p> <p>2 第二次審査実施概要について （事務局より資料1について説明）</p> <p>3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施 （事業者よりプレゼンテーション）</p> <p>【質疑応答】</p> <p>スマートフォンファーストや職員の提言による効率化を図るという点については理解しましたが、シビックプライドを高めていくために、港区ならではの点についてお考えを伺いたいと思います。</p>	
A事業者	<p>1点目はキッズページで、他自治体ではクイズで固定化されていますが、港区の子どもたちに楽しんで学んでいただきたいと思っています。</p> <p>2点目は追加提案の動画で、スマートフォンを使った撮影方法などの研修も行うことを考えていますが、そういった例は他自治体ではまだ少ないです。3点目は写真のストックで、支援業務の中で新しい施設や取</p>	

A 委員	組、イベント等も撮影するという点です。そういったデジタルを使ったシビックプライドが実現できるのではないかと考えています。
A 事業者	構築と運用当初の仕様のみ提示いただいたが、将来的なシステムの方向性や、区民の満足度をより高めるためのアイデアや他自治体と港区で違うところ、注意すべきポイントについて教えてください。
B 委員	今後はホームページに限らず、港区広報として考えていくべきと考えます。職員の負担を軽減しつつ、住民の満足度を上げて初めて広報DXが実現できるので、広報情報をホームページに集約し、様々な媒体に展開する拡張性を持ったシステムにしていくことで、新しいSNSや企業・団体との連携も可能になり、地域を巻き込んだ情報発信ができると考えます。今回他自治体と大きく変えたところはデザイン性であり、全て調べ切れてはいませんが、都内では初、おそらく全国でも初というデザインを考えています。港区は、全国に比べてスマートフォンやタブレットの保有率が高いという点から、港区が最初にやるべきと考えています。
A 事業者	最高峰やリードするホームページになるなど期待させる内容でしたが、特に斬新で革新的な提案というのはどの辺りでしょうか。
B 委員	繰り返しになりますが、まずはデザイン面です。UX・UI 専門家に意見をいただきながら、港区の特徴であるスマートフォン保有率を意識した他自治体にはないものになっています。またキッズページについても、コインを貯めるというアニメーションを使い、遊び心を入れています。支援業務として、単にページ作成支援ではなく、研修により職員の知識向上を図りながら、区民にとって伝わるホームページにすることが、我々が目指す最高峰という品質になると提案しました。
A 事業者	スマートフォンファーストのデザインは、中央しか情報がないと、パソコンで見たときにパソコンの意味がないのではという懸念もありますが、どのように考えていますか。
B 委員	提案の中ではトップページをこのような配置にしていますが、記事ページは幅を広げた配置にするという技術は使えるため、検討しながら実装していきたいと考えています。
A 事業者	CMS機能でアクセシビリティに配慮したページを作成できるようになっていますが、この機能を用いると、割と簡単に職員でも操作できると考えてよろしいでしょうか。
B 委員	多くの自治体に導入されており、基本的にはこの機能を使っていただければアクセシビリティに配慮できます。定期的に総務省推奨のM I Aチェッカーなどで、全体的な品質チェックも行い、職員でもできるよう動画などを用いて支援できれば、アクセシビリティの品質が高くなると考えています。
A 事業者	ホームページからLINEや他の仕組みに連携していくところがありますが、テストはどの程度考えているのかお聞きしたいです。

A事業者	外部の実際の連携となるとネットワークの環境などがあるため、試験期間を長く持たせていただいて、事故のないよう導入していくことを考えています。
C委員	御社には専門分野の有資格者が在籍していると思いますが、今回の業務従事者・予定者の中には、有資格者の方が1人もいないように見受けられます。ホームページの最高峰のクオリティーはどのように担保していくつもりなのかお聞かせください。
A事業者	今回の従事者の中では資格という部分では取得していませんが、私自身20何年自治体のホームページに携わっています。我々に足りない部分は外部の専門家や広報アドバイザーにも参加していただき、あらゆる目線を入れることによってこの最高峰ということを目指していきたいと考えています。
C委員	構築する上ではスケジュール管理が大切になります。できれば構築期間も短縮していきたいですが、その辺りの工夫を伺いたいです。
A事業者	できるだけデザインやコンテンツを検討する時間を作るために、システムのパッケージ部分など早めに終われる部分を短くすることで、多少なりともスケジュールを短縮できるのではないかと考えています。
C委員	自治体のホームページ業務に長年関わってきた経験から、ホームページを構築していく上で大切にしていることがあれば伺いたいです。
A事業者	担当者間のコミュニケーションが一番重要と考えます。テキストだけではなく、具体的なもので示すことで、認識のずれをなくそうと心がけています。
D委員	動画の撮影研修という話がありましたが、広報力アップ研修の中に入ってくるのでしょうか。
A事業者	それもできますし、初期構築の中でさせていただいて、やはり職員で作れるということであればそれでもよいと考えます。
D委員	現在のメガバナーが訴求力を高めていて、その時々の方針を出すとなるとどの部分に出すことを想定しているのでしょうか。
A事業者	トップページの中央に表示するか、ポップアップで出すこともできます。トップページからのアクセスは3割程度で、その他はヤフー、グーグルで検索して末端に行くため、トップページのメガバナーだけというよりはどのページに来てもポップアップで出すということも1つの方法ではないかと考えています。要望を伺いながら考えていきます。
D委員	データに基づいてスマホファーストというのは説得力がありますが、PCで見たい方もいる中で、スマホ重視を前面に出した場合に、今後PCの閲覧者にも軸足を置くという対応は可能でしょうか。
A事業者	これを軸にというより、この他にもデザインを出ささせていただいて、どういう形が良いのか、最適な見せ方をお互いに考えながら検討していければと思います。

D委員	検索機能について、明確に調べたいものがわかっていない人、ある程度行政のことがわかっている人だと、カテゴリーから入っていきたいが、それがすべてオミットされている印象を受けました。
A事業者	UI・UX専門家も情報分類カテゴリーはあった方がいいという意見もあります。今回はよりスマートフォンに寄せたのでグローバルナビゲーションを閉じていますが、閉じない案も考えているので、その辺りは協議の中で決めていければと考えています。
D委員	防災メールの自動翻訳について、翻訳の正確性はどうか担保されますか。
A事業者	迅速にという点でAI自動翻訳としており、ここ数年で精度は上がっています。23区でもAI自動翻訳を入れることでネイティブ翻訳のページは減っており、防災についてはある程度フォーマットのようになるのではないかと考えています。1人でも多くの外国人に早く届けるという点では、AIが1つの案と考えます。
D委員	機械任せにしてしまうと翻訳品質が低下することもあるので、ある程度安定するまでは、ネイティブに見ていただきながら機械の中で辞書登録することで改善できるのでしょうか。
A事業者	AIで提案していますが、ネイティブの視点も入れながら運用させていただきたいと考えています。
C委員	例えばこういったホームページを見るときはスマホで見る方が多いのか、PCが多いのか、統計があれば教えてください。
A事業者	全国的には、約7割がスマートフォンであり、生活情報に限ると、8割以上になります。パソコンは我々のような業者や自治体関係者が多いという統計があります。
委員長	4 第二次審査結果及び事業候補者の選定について (事務局より結果について説明)
D委員	各委員は二次審査に対するコメントをお願いします。 リニューアルの目的は理解してくれていること、今ある最新のものにしたという思いも感じられました。スマホファーストについては慣れの問題かなという印象と、重視していたカテゴリー検索は対応できそうと思ったので、安心しました。唯一、災害時の外国語翻訳に不安は残りますが、及第点にしました。総評として74%なので文句はないですが、残念なのは一番重視していた項番2の提案の実現性が68%で、ここが高い方がよかったと思いました。結果においては通過でいいと思います。
C委員	CMSは職員の負担軽減を意識していると思いました。操作性が割と簡単なものになっていた点は評価しています。ホームページを構築するところを区側と一緒に作っていくという姿勢が伺えたので、一緒にいいものが作っていけるのではと思いました。スマホファーストについては議論はあると思いますが、全国的にまだ稀なことにチャレンジしようとし

E 委員	<p>ている気概は伺えたので、そういった点を評価しました。</p> <p>スマホファーストのデザイン性など斬新な提案していると思います。デジタル対応はしっかりしており、そこから広報紙に流し込めると効率化が図れると思いました。ただ、シビックプライドは全員広報の意識が必要と思います。骨組みはこれで良いですが、研修等で港区らしさをうまく付け加えていくと良いと思うのと、D委員がおっしゃったように、港区在住外国人が住んでよかったと港区をより好きになる仕掛けを工夫して欲しいと思いました。防災のA I 自動翻訳は、国立研究開発法人情報通信研究機構（N I C T）だとあらゆる言語に対応でき、使うほど翻訳が精緻化していくので、防災においては行政もそれを使って翻訳精度を高めて行って欲しいです。動画はこれから話題の生成A I でかなり手軽に作れるようになるし、各自治体も出していこうから競争になると思います。全体的には、これから区と二人三脚でやっていけるような資質を持っていると判断しました。</p>
A 委員	<p>他自治体での経験などを踏まえて、特に時間がかかりそうなポイントも押さえており、研修のサポートやフォローということもあったので、プロジェクトの進行・運用のサポートは、安定して進めていただけるのではないかと感じました。確かに港区らしさというところは、目新しい回答ではなかったと思いますが、その姿勢として、協議をしていくという点やチャレンジしていく姿勢は感じたので、今後の協議の可能性はあると感じました。</p>
B 委員	<p>私も港区らしさというところは、あまり感じられなかったというのがあります。革新的な取組の1つが、スマートフォンファーストのデザインというのも自分的にはあまり響きませんでした。ただシステム開発の部分で、テストを厚くしていく予定だとか、構築自体には特に問題はなく、この業者でよいと思いました。</p>
委員長	<p>それでは点数のばらつきもなく、結果は確定ということで、委員会としては、事業者Aを事業候補者として選定することとしますがよろしいでしょうか。</p> <p>（異議なし）</p> <p>それではA事業者を、事業候補者として選定いたします。事務局から事業者名の発表をお願いします。</p>
事務局	<p>事業者の事業者名はグローバルデザイン株式会社です。</p> <p>5 閉会</p>